

# 牛がよんぺんと診断されてから

根室南部事業センター 第一家畜診療課 獣医師 井上 剛 至



「この牛、食欲ないし調子悪そうだな。四変（よんぺん）かもな。獣医さんに往診お願いしよう」

獣医さんに診てもらおうと、

「四変ですね。手術室に運ぶ手配をしてください」

こんな場面があるかと思えます。

第四胃変位（四変…よんぺん）は、飼料、管理条件、運動、分娩などが原因となり、機能異常を起こして緩んだ第四胃にガスが溜まり、第四胃が異常な位置に移動してしまう病気です。四変と診断された牛は家畜車で手術室まで運ばれ、手術を受けた後、牛舎に帰っていきます。この回では手術室に運ばれてきた牛が何をされ、獣医師が何をしているのかをご説明いたします。



③ 手術台を操作しながら慎重に牛を逆さまにし、点滴します



② 手術台に牛を寄せ足を縛ります



① 家畜車から牛を降ろします。暴れる牛がいるので注意しながら手術台まで歩かせます



⑤ 手術を始めます。所要時間は15分ほどです



④ 手術中の汚染物による感染や手術後の合併症を防ぐため、手術創の消毒をします



## 家畜技術情報



牛を横に寝かせ、足を解いて牛を立たせます



皮膚を縫って手術は終了です



根室南部事業センターには手術台が2台あり、手術牛が複数頭いるときには2頭同時に行って手術を回し、なるべく早く牛舎に返すように心がけています

これが手術室に牛が運ばれてきたから牛舎に帰っていくまでの流れです。



家畜車に乗せて見送ります